

## 事業の背景・目的

当館は2019年から許可を得て本種の捕獲や飼養を行っている。2019年、捕獲調査により新潟県下越地方で3箇所の新たな生息地を確認し、生息域内での成果を上げている。また、飼養により頻繁に砂泥に潜ることや、夜間に活発になる行動生態を明らかにしている。春季に婚姻色が発現するものの現在まで繁殖には至っていない。本事業により、繁殖を成功させ繁殖技術を確認して生息域外保全の基盤とする。生息地調査も併せて実施し、生活史や繁殖生態などの生態を解明する。更に、普及啓発により認知度を向上させて、本種を保全する。

## 事業の内容

### 事業① 生息域外保全事業

・令和3年度に交付金を用いて、屋外に水量800ℓのガラス窓付FRP水槽2槽と、屋内の窓際にアクリル製90cm水槽3槽を設置し、秋季より飼養を開始している。アクリル製60cm水槽2槽は受精卵や仔稚魚の育成に使用する予定である。

### 事業② 生息地調査事業

・生息地調査の実施日数は5日で、既知の生息地へは延べ6回、新たな生息地を探す調査を実施した場所は、延べ13箇所であった。  
・山形県の生息情報を収集した。

### 普及啓発

・展示とメディアで本種や当館の取り組みを発信した。

## 得られた成果

### 事業① 生息域外保全事業

・既存と合わせて繁殖水槽は8槽となり、良好な環境で飼養している。  
・繁殖期の春季となり、各水槽で雌に婚姻色が発現し始めている。

### 事業② 生息地調査事業

・生息地の排水時に、混獲防止や流出防止をした。後日、貯水が開始されてから、再び赴き、堤の下の槽に流下していたり放したりしていた約1,000個体を網で掬い堤に戻した。  
・既知の生息地の上部にある堤で生息を確認した。現時点では形態からの種同定で、現在、遺伝子解析を依頼中である。  
・山形県の専門家らと、生息情報を共有した。

### 普及啓発

・共同通信社の取材を受け、約30の地方紙、および共同通信社と加盟紙のWEBサイトに、本種と当館の取り組みの記事が掲載。  
・情報発信の成果で、大学より環境DNA解析の申し出があった。